

2022 年秋学期 ウォータールー大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで記載されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

Writing・Reading & Listening・Speaking の3つの授業がありました。聞いてばかりの授業ではなく、ペア活動やグループワークが多く、授業への積極的な参加が求められました。またプレゼンなど、クラスの前で発表する機会も多くありました。

基本的にライティングの授業以外はプレゼンテーションをすることが多かったです。また、1つのお題に対して意見を出し合う授業もありました。ライティングでは最低週に一回文章を書いて先生に添削してもらうというような授業でした

基本的には対面授業で、主にリーディング&リスニング、ライティング、スピーキングの授業を行いました。ライティング以外の授業ではプレゼンテーションをたくさんしました。

ゆっくりで教科書や文法等を行いました。

基礎からもう一度しっかり学ぶことができました。

授業の形態は固定のクラスで行われました。テストの結果によりクラスのレベルが変化するというようなシステムは行われませんでした。

毎日タスクが決まっていてそれをもとに授業を行っていく。グループワークが多かった。エッセイ、プレゼンが主な授業。

今まで習った文法やエッセイなどの書き方を英語でもう一度勉強し直すようなかんじでした。

リスニング、リーディング、ライティング、コミュニケーションの授業でした。

グループワークが多かった。先生が基本話していて自由に生徒が発言する形だった。

話すことを重点的にする授業、文法を重点的にする授業と発音矯正の三種類の授業がありました。週に一回プレゼンのある授業でプレゼンの準備をしたり、教科書を使って授業を進めていったりしました。

ただ先生の話聞くだけでなく、グループワークやペアワークを用いた生徒参加型の授業形態が多かったです。1.2週間ごとにプレゼン、レポート、エッセイなどの課題があり、それに向けた授業が進められました。また、週ごとにテーマがあり、それに沿って進められました。

パワーポイントをホワイトボードに映し出し先生が説明していきます。

文法的な勉強、グループワーク、ライティング、プレゼンテーション、が多かった。特に、ライティングは書き方のルールが多くきつかった。プレゼンテーションは、グループですることが多く、意見が全く合わないため、本当に大変だった。最後に個人で7分から8分のプレゼンテーションがあつて、大変だった。

授業形態は、日本とそんなに違いはありませんでしたが、基礎からしっかりと復習もかねて始めました。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

クラスには約25人在籍しておりました。日本人は私1人でした。ウクライナ、コロンビア、中国からの留学生が多くいました。そのほかには、韓国、パナマ、ヨーロッパ圏からの留学生がおりました。

日本人と韓国人が同じくらいいて9割を占めていました。3人だけ他の国で、コロンビア、パナマ、メキシコの子でした。

200-400のクラスにレベル分けされており、200のクラスはほとんどが日本人と韓国人で構成されていました。また、コロンビア出身の人、レベルが上がるにつれてウクライナ人などもいました。

日本 6:4 韓国

クラスの人数は 15 人ほどで韓国と日本の留学生が多かった。
クラスの人数は 20 人くらいで構成されていました。日本人が12人と韓国からの留学生が 6 人とコロンビアからの留学生が 2 人でした。
日本人が半数以上。他に韓国人とコロンビア人。
日本人が7割、他は韓国人とコロンビアの人達でした。
クラス人数:20人程度 日本人比率:半分程度 留学生出身地:韓国、コロンビア、スペイン
クラスの人数は 20 人ほどで、日本人と韓国人が多くポルトガルやパナマの人が 3 人いました。
クラス人数:14人, 日本人:8人, 留学生:6人(韓国人:4人, コロンビア人:2人)
日本人8人 韓国人7人 メキシコ人1人 コロンビア1人 大体1クラス20人程度
日本人6割、韓国人3割、コロンビア人 1 割ぐらゐの比率だった。日本人 8 人、韓国人4人、コロンビア人 2 人

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。
クラスの雰囲気はとてもあたたかく、にぎやかでした。そのため、発表がしやすい環境でした。
最初こそみんな授業に出ていましたが、風邪もあってか最後のほうはよく休む子も少し居ました。雰囲気はあまり日本と変わりませんが、コロンビアとパナマ、メキシコの子が特に授業で積極的に発言していました。
先生がフレンドリーでみんなが自由に発言できる授業だった。
日本との相違点は、授業中の発言が多く、また、答えを求められることより、意見を求められることが多く、間違ふことを気にすることなく色々な意見を学ぶことができた。また、グループワークがほとんどであり、小プレゼンを授業中に何度も行った。クラスの雰囲気は非常によく、会話が行きかっていた。しかし、母国語で話す生徒がほとんどで授業中英語を耳にする機会は先生のレクチャーが多かった。
雰囲気は良く、いつでも質問ができるようなアットホームなクラスでした。少人数制です。感染症対策により、テストは各自パソコンを持参しオンラインで行われます。
いつも賑やかでした。
発言できる場面が多くあった。間違ふた答えでも先生は間違ふてるとは言わず、認めてくれる事が多かった。
クラスの雰囲気はスペイン人の生徒さんたちがよく発言しているという様子でした。日本では静かに先生の話を聞いているという授業風景ですが海外では発言しないと考えていないように先生から見られてしまうので積極性は大切だと学びました。
クラスの雰囲気は大変良かったです。先生が明るいのでそれに伴って明るいクラスでした。積極的な日本人もいますが、やはり韓国やコロンビアの生徒の方が積極的に発言し、授業に参加していた印象があります。
授業時間は、日本よりも少し長いですが、スモールブレイクが途中にありました。課題は多く、どの授業も自分からの発言が求められました。また、プレゼンテーションの点数が高かったです。

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。
ヴィクトリア時代と現代の生活の違いです。実際に、遠足でヴィクトリア時代の建築物を訪れたことがとても印象に残っています。
空気汚染についてのトピックが多い印象でした。
食べ物のピラミッドのお話です。
エッセイを書くことです。
環境問題について考えることが多く、日本同様に海外でも環境問題は注目されていることなのだと感じた。
特に印象に残ったトピックは、環境問題に関連するものです。問題に対する解決案をグループプレゼンテーションによって共有しました。
自分でアンケート調査をして分析結果をプレゼンする課題
各国の働き方の制度。チップ制度。

環境汚染についてのトピックです。

impromptu speaking の練習が一番印象に残っているし為になったと思った。

授業の中で印象に残っているものは発音の違いでした。R や L など日本語にはない音を実際に単語を使って発言しながら学んでいくというのは楽しかったです。

Topic Proposal が最も印象に残っています。このトピックは EFAS220 という授業の最終課題であり、1 学期間この最終課題であるプレゼンテーションを完成させるために進められました。一人一人異なるトピック、トピックに関するリサーチ目標、リサーチの推測を決めて生徒にアンケート調査を行いました。そして、アンケート結果からリサーチの推測は合っていたのかという分析を行い、研究結果についてクラスに発表する授業でした。1 学期間継続して行われた授業であったため、プレゼンテーションを終えた時は達成感を感じました。

トピックはあまり記憶にないが、ほとんどのテストがプレゼンだったことが一番記憶に残っている。

プレゼンテーションでみんなでオリジナルの商品を考えたとき

エアポリューションを題材とするものが多かったように感じます。私はライトによる害についてプレゼンテーションしました。

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

発言することが苦手だったため、1 日 3 回は発言しようという目標を立てて授業を受けていました。また Writing のクラスで課題が出た際には、先生のオフィスに行き、添削を何回も行ってもらいました。

わからないことはわからない、と、ちゃんと先生に伝わるように努力しました。最初は恥ずかしさもありましたが、先生からわかった？と聞いてもらえるようになりました。いい意味で先生に目をつけてもらえるように最初は最前席で授業を受けていました。

わからない所を日本人に聞くのではなく、先生や他国の留学生の人に聞くなどして積極的に英語を使うことをしました。

課題をその日に終わらせることです。

毎授業しっかりメモをとるようにした。

授業は、一番前の席に座ることで先生とコミュニケーションを取りやすい環境を作ったことが工夫の一つです。また、留学当初リスニング力が低く、先生の流暢な英語がききとれず、授業の内容が分からず、厳しさを感じたことがありました。そこで、授業中先生が発言する英語をシャドーイングすることで、瞬時に英語を吸収し頭の中に叩き込んで、理解力とリスニング力の向上に努めました。このような、英語に触れて慣れるという習慣を作る努力が効果的でした。

毎日 YouTube や映画を見てリスニングを欠かさなかった。

日本人とグループになっても英語で話すように意識しました。また他国の生徒とグループワークを行う際に、あたりまえと認識していることが正しいと考えるのではなく、異文化を知り違う考え方を吸収することを意識しました。

常に英語を聞くように意識していました。

毎日家に帰ったら自分でその日に学んだことをノートにまとめるようにしていた。

授業を受け終わったら放課後に残ってその日にでた宿題を終わらせて帰るということを意識して続けていました。授業の内容がまだ頭に残ったまま宿題に取り組みますし、その日の授業の復習にもなるので良かったです。

少しでも分からないことがあれば、積極的に先生に質問しに行きました。質問することで英語を話す勉強にもなるので大変良かったです。また、課題を早めに仕上げるのと添削してもらうことが可能であった為、早めに終らす様、努力しました。

分からないことがあれば、すぐに先生に質問するようにしていた。

私は、人より聞き取れない、発言することが苦手だったため、できる人の近くに座り英語でもう一度言い直してもらうなど工夫していました。ですが間違えてもいいので発言することが何よりも近道だと思いました。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの国の人でしたか。
0人	
1人	韓国、日本
2人	韓国、ベトナム
3人	韓国、トルコ、コロンビア

通学手段	通学時間	主に食事はどこでとっていましたか。
徒歩	0-15分	ホームステイ先
バス	15-30分	ホームステイ先
バス	30-45分	ホームステイ先
バス	45-60分	ホームステイ先
電車	45-60分	ホームステイ先

部屋に用意してあったものは何ですか。
ベッド、勉強机、椅子、ハンガー、タオル類、ゴミ箱
ベッド、クローゼット、机、椅子
ベッド、机、鏡、ハンガー
ベッド、机、椅子、クローゼット、棚
ベッドとダンスと勉強机。
ベッド、勉強机、姿見、文房具、クローゼット、カイロ、スリッパ
ティッシュ、ハンガー、洗濯物入れ、鏡
ベッド、勉強机、ランプ、本棚、英文法の参考書、衣装棚と洗濯物を入れるかごでした。
勉強机、椅子、ベッド、ベッドサイドランプ、クローゼット、ハンガー、収納箱、全身鏡、ドライヤー、バスタオル

自分で用意したものは何ですか。
シャンプー、リンス、ボディーソープ、洗顔用品など
ハンガー、バスタオル
ヘアアイロン、タオル、歯磨き粉等
シャンプーリンス、ボディーソープなどの消耗品、衣服など
ドライヤー、お風呂で使うもの、バスタオル、スリッパなど
衣服用の消臭剤(洗濯が週に一回のため)
ドライヤーやシャンプー、リンス、ボディーソープ、ティッシュです。
ドライヤー、お風呂用品、タオル、スリッパ
衣服と自分が使っている化粧品や授業に必要な文房具などです。
シャンプーなどのお風呂用品、歯ブラシ、歯磨き粉、化粧水(自分のこだわりがあるモノ)、洗濯ネット、消臭スプレー、爪切り、耳かき
ドライヤーやバスタオル、シャンプー類、洗濯洗剤、日本食

ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。

1週間に1回しか洗濯しないこと。

お風呂の時間が決まっている。

シャワーだけで湯船に浸かれなかったこと。

夜10時以降は、水道代が高いことから、お風呂は基本的に10時以前までということ。

トイレにウオシュレットがないこと、お風呂に入れないこと

洗濯は週に一回という点。

お風呂に毎日はいる習慣がない

驚いたことは本当に家を土足で上がって許されるということでした。食生活の面ではポテトが多かったです。

洗濯は週に1回、バスタオルは3.4日に1回交換

お風呂の時のシャワーで、シャワーヘッドが固定されていて少し不便だった。ゴミも日本以上に分類が細やかで少し戸惑った。

ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

明るく挨拶すること、積極的にコミュニケーションをとること、些細なことでも報告することを心がけていました。

留学前に滞在先に連絡を入れ、ハウスルールを事前に聞いておくことをおすすめします。

ご飯はしっかり食べる。

必ずスリッパを持っていくこと。部屋履き用と浴室用など使用別のスリッパを用意することで、もし、浴槽に素足で入ることに抵抗がある場合にも対応できる。

ホストファミリーによって待遇はそれぞれなのは事実です。しかし、私はその人のとらえ方次第だと思います。出来事を嫌なことだとネガティブにとらえるのか、異文化だと認めるかでステイ先での3ヶ月をどのような気持ちで過ごせるのか決まるのではないかと思います。

異文化やその家の習慣などが日本とは全く異なることを理解しようとする姿勢が大事。

快適に過ごすためにホストファミリーとの関係は良好にしておくことが大切だと思います。一人になるのが好きでもホストファミリーが誘ってくれた食事やイベントにはできるだけ参加するようにすることが大切だと思います。

自分の部屋にこもるのではなく、積極的にマザーと交流しようと思いました。私のマザーは、～食べる？や一緒に映画見る？など社交的な人だったので、マザーの人柄に大変助けられ、快適に楽しく過ごすことができました。また、少しでも分からないことがあれば直ぐ聞くようにしていました。家でのきまりについて最初に聞いておくことより快適に過ごせると思います。

ホームステイ先にはそれぞれのハウスルールがある。しっかりと聞いておくことと、困ったときや学校で帰りが遅くなる時でも基本メッセージを送っておくなどコミュニケーションが特に大事。

yes, noをはっきり言うことが大事です。ホストマザーは無理しないでいやなら嫌と言うことを約束してとってくれたので割とうまく生活できました。

パソコンは 持参しましたか	インターネットは部屋から 接続可能でしたか。
はい	LANケーブルで可能
はい	ワイヤレスで可能

携帯電話は 持参しましたか	利用方法
はい	日本から SIM カードを持参
はい	留学先で SIM カードを購入

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。

放課後は学校のイベントに参加したり、友人とショッピングをしたりしていました。また夜には、ホームステイ先が同じ留学生とリビングお話をしたり、散歩をしたりしていました。休日にはトロントまで遠出や課題をしていました。

毎週のようにイベントがありました。テストが近い時はイベントに出る余裕はありませんが、それ以外は参加できると思います。興味があるイベントに出てそれ以外は友達とお出かけしたりしていました。

同じプログラムの海外留学生と一緒に参加しました。

大学のイベント

学校のボランティアやイベントにたくさん参加した。

授業後は、必ずと言って良い程に毎日、イベントが開かれていたため、少しでも経験と交流を求めて積極的に参加しました。また、ボランティアでは、現地の学生と協力して、来客のお客様や学生に楽しんでもらうことができました。最後にサークルやクラブといったものに参加することはできませんでしたが、ドロップインの形式のバレーボールに参加することで、現地の学生に混じりプレーすることができた。

トロントに出かける、スポーツ観戦、スピーキングパートナーというプログラムを使って外国人の友達を作る

カンパゼーションパートナーと会ってスピーキング力の向上に努めたり、ジムやカフェに友達といたりしました。大学主催のプログラムは毎日のようにあり、進んで参加するようにしていました。

ボランティア活動に参加した

自由時間の過ごし方としては大学のイベントにも参加していましたが日本に帰ると就活に近いこともあり日本から SPI や TOEIC の教科書を持ってきていたのでそれらを精力的に自分の部屋などで取り組んでいました。

毎月様々な大学主催イベントがあり積極的に参加しました。例えば、ムービーナイト、ボンファイヤー、スピードフレンジング、ホッケー観戦、ナイアガラの滝観光、トロント観光など様々なイベントがありました。また、英語向上を目指すスピーキングパートナープログラムに応募し、週に1回1、2時間ほど交流しました。また、International Fair という異文化理解イベントを主催するボランティアに参加しました。グループに分かれてブースを企画するのですが、同じグループに台湾人と中国人の子がいたので、異文化交流を深めることができました。

大学のイベントに毎日のように参加し、ボランティア活動にも参加し、英語の練習のためにも先生たちとお話をしたりして過ごしていた。

友達とよくショッピングに行っていました。

イベント参加や、スピーキングパートナーといろんなところに出かけました。

学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など

コネストガモール、PLAZA

学外で家から近いショッピングセンターをよく利用しました。近くに日本の百貨のようなお店があったので、そこでお菓子や消耗品をよく購入していました。

ティムホートン、学内コンビニ(SLC)、プラザと呼ばれるご飯屋さん街

ジム

学生無料のジムに通っていた。

学内では、クッキーや飲み物が無料で置いてある部屋や、学内にある4つの図書館や、一人座れるソファ席、ティムホートンなどを多く利用していました。

コネストガモール、学校近くのごはん屋さん(プラザ)、ジム

Tim Hortons, 学内ジム、コネストガモール、フェアウェイモール

学内のジムやコンビニによく行っていた。

学校の近くにあったご飯屋さんにはよく行きました。

Tim Hortons(コーヒーチェーン店)、Conestoga Mall, Fairview Mall(ショッピングモール)、DOLLARAMA(100円ショップ)、Walmart(スーパー)

学校の近くにショッピングモールがあり、学校の帰りにバスに乗って寄って帰ることが多かったです。

Conestoga Mall というショッピングモールに良く行きました。ジムも無料なのでたくさん利用しました。

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備

クラス分けテストに備え、英語の勉強に取り組みました。また、緊急時に備え、緊急連絡先などを紙にまとめました。

英語の勉強とともに、日本の勉強を少ししていました。また、留学先で家族や住んでいる場所の事を聞かれると思ったので、写真を整理していました。

大学や場所の事前リサーチ、簡単な日常会話の勉強

英文法の復習、英会話レッスン

英語学習

留学の事前準備としては英文法を一から見直しました。あとは海外のバラエティ番組を見るなどしてリスニング力も強化しました。

英単語帳の勉強をする。SNSで使える英語フレーズについての知識を得る。英会話系 Youtube を見る。

文法のおさらいや単語を増やそうとした。

携帯を止めました。電話番号とメールアドレス保管にして、携帯代を安く抑えました。

留学前にしておけばよかったと思う準備

もっと日本の勉強をしていればよかったと思います。日本が好きな人に色々聞かれてすぐに答えられなかったことが多々ありました。

もっと英語に慣れておけばよかった

中学英語を完璧にしておくべきだったと思いました。基本的に中学英語で会話をするので、もっと勉強しておくべきだったと思いました。簡単な英単語でさえ出でこないことがあったので、基礎単語を調べ、それらについても勉強しておくべきでした。

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの

クラスメイトに日本のお菓子をあげた際にとっても喜ばれました。

お茶、日本の菓

モノではないですが、現地大学生と仲良くなるうえで、すでに持ち合わせていた自分の趣味(漫画やアニメ、その他知識)がとっても役立ちました。

折り紙、みそ汁

抹茶のお菓子は多くの人に喜ばれた。役に立ったもの:スリッパ。水筒。フェイスタオル(6枚程)。洗濯ネット。

ナプキン、日本のごはん、お菓子、現金

抹茶、緑茶、カイロ、

ティッシュ、生理用品

スリッパは必須 日本のパームクーヘンは誰が食べても喜ばれた。

日本からは手ぬぐいを持っていくと喜ばれました。日本の緑茶やお菓子などは意外と近くのスーパーで買えたのでそんなに喜んでくれませんでした。

消臭スプレー(洗濯が週に1回しかできないため一週間に同じ服を着ることがよくあり、持って行くと便利である)、ボールペン(日本の文具は優れているため好評である)、文法書(単語帳を持っていたが、文法書も必要だったと後悔した)

レトルトのご飯。

ウエットティッシュと常備薬です。私は、カナダで4回風を引いたので、風邪薬や胃薬を持って行った方が良かったと思いました。

日本食は絶対に必要です。

日本から持っていく必要のなかったもの

電子辞書

室内履き(ホストマザーが用意してくれた)

たくさんのアウター・洋服

タオル、歯磨き粉

変換プラグ

ハンガー、洗剤

沢山の洋服(現地で買うので結局着なかったものがほとんどだった)

日本からは服を大量に持ってきてしまったのを後悔しています。洗濯の機会もそんなになかったですし特に日本に比べて見た目に気にしなくてもいいのでそんなに服はいらないと感じました。

シャンプー、リンス、ボディソープなどのお風呂用品(現地で買い揃えることができるため、日本から持って行くと液体であるため重い)

バスタオル。

リクルートスーツ。夜中にオンラインインターンでもやろうかと思っていましたが、意外に宿題が多くて忙しいのと、夜の消灯時間が決まっていたので無理でした。

変換プラグとか意外と使わなかった。

日本から持参すればよかったと思ったもの

予備の携帯、白米

ブルーライトカット眼鏡(パソコン作業ばかりで疲れる)、日本のお菓子(最初に国外の子と仲良くなれるきっかけになる)

ダウンジャケット

スイミングの水着、スリッパ、シャンプートリートメント、スウェット

加湿器、水筒、ウエットティッシュ、タッチ決済のできるクレジットカード、

手袋、耳当て

日本からは除菌シートをたくさん持ってこればよかったと思いました。猫と一緒に住んでいたのに猫を触った後に除菌シートで手を拭いてからご飯を食べていたのですが留学の前半くらいでなくなってしまったのでたくさん持ってこなかったことに後悔しました。

風邪薬(環境の変化により体調を崩す子が多かったので必ず持って行くべきです)、小さい鞆(リュックと大きいトートバッグしか持って行かなかったため、不便でカナダで購入しました)、キャリーバッグ(キャリーバッグを1つしか持って行けないと勘違いしていたため、大変不便でした。必ず荷物が増えるので2つ持って行くべきです)

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。

クレジットカード2枚、カナダドル5万円分ほどを日本から持参しました。現金はオンラインで事前に換金しました。

クレジットカード、現金

現金、デビットカード(毎月日本から親に自分が貯金していたものを振り込んでもらっていました。)

クレジットカードかデビットカードか現金

クレジットカード、デビットカード、現金

クレジットカードと現金

クレジットカードを二枚、デビット一枚、現金は700ドル程度持っていったがほとんど使わなかった。

visaのクレジットカード、現金5万円

3つに分けていて、クレジットカード、プリペイドカード、現金

クレジットカード、デビットカード、日本円、カナダドル

クレジット、デビット、現金。

現地で支払った住居費と食費を教えてください。

ホームステイ費用以外に約8万円ほど食費に使いました。

約15万円

全体で、40万くらいです。

留学費用に含まれている、外食のみお金がかかる

食費5万

住居費は現地では支払わなかったですが、食費は三か月で5万円くらいでした。

外食することが多かったため、5万ほど食事に使った。

住居費は現地では払っていません。食費は外食が多すぎたため三か月で10万くらいです。

テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。

約 10000 円

テキスト代は1万、通学費はプログラム費用に含まれていたため、かかりませんでした。

テキスト代は約6000円

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。

約 30~40 万円ほど

食費で20ドルは普通でした。

約 30 万、ニューヨークの旅費、お買い物、遊び代など

お土産、服、10 万ぐらい

約 15 万円

10万円以下

個人費用に 20 万円使いました。

旅行:約 6,7 万円、衣類:約 2 万 5 千円、外食費:約 4, 5 万円

20 万以上

買い物などで合計、35万ぐらいです。

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析

積極的にコミュニケーションを図ったことで、スピーキングが伸びたように感じています。そして、以前より自信をもって英語を話すことが出来るようになりました。また、様々な英語のアクセントに柔軟に適應していく力が身についたと思います。

コミュニケーション能力は向上したと思います。最初はほとんど話せなかったけど、発音を気にせず話していたらだんだん慣れてきて最後はホストマザーや友達に上手になったねと言われるようになりました。

全体的に上がった気がします。留学当初は海外の友達が直ぐにできず、常に英語の環境の下で生活するのが難しかったですが、後半は常に海外の友達と一緒にいたため、スラングや常用されている会話を自然と使う回数が増えたので、英語力が底上げしたと思いました。

語学力は覚える単語が増え、リスニングが強くなった。人見知りをしなくなった。自分から話しかけることが多くなった。

語学力については、リスニング力・スピーキング力・ライティング力の中で最もリスニング力が向上したと言えます。続いて、スピーキング力そして最後に、ライティング力です。理由として、リスニング力とスピーキング力は、会話をするために最も必要なスキルであるからです。そのため、繰り返し練習するために、コミュニケーションを積極的にまた、間違いや喋れないことを恥ずかしいことと思うことなくチャレンジすることを重視しました。結果、留学当初より、確実に英語に慣れることができました。

ある程度聞き取る能力は高まったが、スピーキングはまだ未熟

以前の自分に比べ、自信ができました。自分から英語で話しかけることもできるようになったし、1 人でも出かけることができるようになりました。

現地の人と沢山関わったし、英語上手に話せてるねと言われる事が多くなった。

リスニング力と英語で受け答えする速度が上がりました。

留学前と比べると確実に語学力は上達しましたが、まだまだ聞き取れないこと、単語が分からず理解できないこと、話せないことがあるので自分自身の語学力に全く満足できていません。しかし、リスニング力は向上したと思います。英語環境なので自然と耳が慣れ、聞き取れるようになりました。話すスピードが速く、訛りがあると聞き取るのが難しいですが、確実に向上したと思います。また、良いことなのか分からないのですが、文法を気にせ

ずとりあえず話してみよう精神で英語を話すようになりました。例え文法が間違っている程度伝えることが可能なので伝えようとする気持ちが大切だと学びました。

最初のころは聞き取るのも難しく、話すのも難しく毎日へこんでいたけど、帰る頃には初めと比べると自分から積極的に話に行くようになった。そして注文もできるようになったし、簡単な日常会話ならできるようになった。

何もわからないところから、聞き取り、日常会話が成り立つほどに成長しました。

留学前の目標とその達成度

英語力の向上以外にも、自分の意見を素直に相手に伝えるという目標を達成することができました。

留学先で日常会話程度の語学力を身につけ、友達をつくるということが目標でした。日常会話程度ならできるようになったと思います。コロンビアとメキシコから来た子と友達になれました。一緒にお昼ご飯を食べたり、お出かけをしたりと楽しい日々を過ごせました。また、英語だけでなくスペイン語に興味を持ち、来年春学期にスペイン語を勉強したいと思うようになりました。

海外の友達をたくさん作り交流することが目標でした。達成度は100%を超えたと感じています。自分から友達になりに行ったのもありますが、最終的にはあまりしゃべったことがない現地大学生からも向こうから話しかけてくれるようになり、仲良くなりました。

いろんな国の友達をたくさん作ることができた。

留学前の目標は、友達をつくるという人との交流を深めることでした。この目標は、しっかりと達成することができたと言えます。

目標は自分に自信を持てるようにすることと現地の人とコミュニケーションをたくさんとること。ボランティアに参加し友達をつくったり、近所の人たちに自ら挨拶をすることを意識しました。語学留学生だけでなく現地の大学生ともっと話せたらよかったなと思いました。

洋画を字幕なしで見ることに、8割分かるようになった

積極的に英語を毎日話せた。

留学前の目標はリスニング力を強化するという自分で自分が満足いくほど目標を達成できたと思います。

留学前の目標は、リスニング力とスピーキング力を特に向上させること、カナダ文化を経験すること、友達を作ること、TOEICのスコアを上げることでした。比較的達成できました。語学力は現状の全く満足できていませんが、留学前と比べると向上しました。ホストマザーのおかげでサンクスギビング、クリスマスツリーの飾りつけ、教会イベントへの参加など様々な経験をすることができ、現地や留学生の友達を作ることが出来ました。TOEICのスコアも少し上げることが出来ました。

日常的な会話を目標としていたが、簡単な会話はスムーズに出来るようになった。

留学前の目標とした最低限のコミュニケーションはとれるようになるは達成したかなと思います。

留学を通しての成長ポイント

カナダという多国籍な国で、様々なものさしに触れ、それを受け入れることで、柔軟な考え方を出来るようになりました。

何事も恥ずかしがらず、挑戦する力がついたと思います。みんなの前で分かりません、と言うのは最初は恥ずかしかったけど、成長のために恥ずかしいという気持ちは捨てて頑張りました。

物怖じせず、話しかけるコミュニケーション能力。

まわりとの差を感じることで、刺激になった。また、英語をもっと勉強しないといけないと感じた。

朝ごはん昼ご飯は基本自分で作ったり、洗濯も自分でしなければならなかったので自立することができた。

自身に対する、自信と挑戦することへの抵抗がなくなりました。例えば、現地で友達を作るためには、受け身な態勢をしていては、状況は日本と変わらず折角の機会を無駄にすることとなると思いました。そのため、自身で道を切り開くことや、冒険してみることの重要性を学び実行しました。また、機会を無駄にしないためには、柔軟に生きることが自身を成長させてくれたと言えます。

コミュニケーション力が身についたと思います。自ら話しかけることや英語で話すことへの抵抗がなくなり、成長したと感じています。

自分で考えて行動できる力がついた。

留学を通して異文化理解力が身につきました。文化が違うと考え方も違うのでどうしてそんな考え方をするのだろうかどうしてそんな行動をとってしまうのだろうか日本人の基準で考えると一見理解不能であってりすることもその方の文化などを知ればいたって普通の事であったりその考え方を理解して尊重したりすることができる力を身に付けました。

何事にも挑戦してみようという挑戦力が身に付いたと思います。皆異なるバックグラウンドを持って留学に参加しており、自分自身に真っすぐに向き合い、やりたいことに挑戦している学生が多かったです。彼らに感化されて固定概念にとらわれず、自分自身の挑戦したいことに挑戦することが大切だという考え方を身に着けました。

分からないことは素直に聞いたり、悩み事も人に相談するようになったりとオープンな性格になった気がする。あとはチャレンジ精神が身についたと思う。

英語の中でも、リスニング力と、スピーキング力。自己肯定感が上がった。

留学を通して、苦手なことから絶対逃げないという精神は身につきました。人前が苦手だった私にとってプレゼンテーションは大きな障害でしたが、その分努力を人一倍したことで自分の好きなことに変えることができました。

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

留学前よりも確実に英語や中国語の勉強に対するモチベーションは高まり、また、楽しんで勉強できているように感じます。現地での留学生との交流で、英語だけではなく、中国語や独学している韓国語が通じたとき、努力が実ったように感じ、もっと勉強して流暢に話せるようになりたいという気持ちが高まりました。

プレゼンテーションに向けての意識が変わったと思います。最初はスクリプトを読んでばかりでしたが、最後は読まずに自信を持って発表することが出来ました。

留学前は英語ができればいいなと思っていましたが、留学中に会った様々な国の人の影響もあり、英語、中国語だけでなくほかの言語も学習したいと思いました。

もっと海外で英語を学びたいと思った。

自分の力不足を痛感し、もっと英語を学びたいと思いました。英単語力をあげて自分の伝えたいことをちゃんと伝えられるようになりたいと思いました。

留学前ではモチベーションは高かったのですが中盤にいくにつれて授業の内容も難しくなり下がっていききました。しかし自分が興味のあるものを英語でしたりするなどしてモチベーションを保ち留学後でも自分なりに英語に日々触れるなどしてモチベーションを保っています。

留学前はまだ実感が湧いていなかったためモチベーションはあまりありませんでしたが、留学中は自分自身の英語力のなさに痛感し、もっと喋れるようになりたい、コミュニケーションを取れるようになりたいと思い、モチベーションが高まりました。また、帰国後もせっかく留学期間中に得た英語力を衰えさせないように勉強しよう、更に英語力を向上させたいと思いモチベーションが高まりました。

留学中は英語に毎日触れるので特にもっと話したいもっと伝えたいという気持ちが膨らんで意欲が増していた。留学後もまた外国人と話すためにも勉強しようと思える。

留学前 勉強を頑張ろうとし、日本人の友達を作らないつもりでいた。留学中 日本人の友達ができ、ずっと日本語を話していた。英語の会話練習もぼちぼち。留学後 もっと英語を勉強したいと思った、費用があればもう一度別の国に、留学したい。

海外の人ともっと話したいという気持ちになり、日本でも交流イベントに参加しています。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

学期末に1人で10分間のプレゼンをしたときです。10分間飽きずに楽しんで聞いてもらえるよう、コンテンツにこだわりました。また、人前で話すことが苦手だったため、家での練習を繰り返しました。結果、クラスメイトが熱心にプレゼンを聞いてくれて、プレゼン後に質問をたくさんしてくれた時はとても嬉しく、やり遂げた達成感を感じました。

最初、日本人の子と仲良くしていて、近くの席で授業を受けていたけど、色々あって1人になった時、コロンビアの子に相談しました。私と一緒に授業を受けようと言ってくれたので、次の日から席を移動して授業を受けました。元いた環境から移るのは勇気が要りましたが、これでよかったのだと思います。

現地で風邪をひいたときに、病院予約の電話から受診まですべて自分でしたとき

プレゼンテーションのテスト

授業での、プレゼンテーションの時です。なぜなら、自身の英語力は特別に高いものではなく、また、プレゼンテーションは苦手であったため、強い苦手意識を持っていました。しかし、一週間のうちに何度もプレゼンテーションをすることで、自分の考えを伝えること、パワーポイントを作成すること、伝えたいことを英語で考えること、人の前に立つことなどすべての苦手分野を乗り越えることができたからです。

留学先では多くの体験をしたいと思い、初めて1人で地域のイベントに参加した時は勇気を振り絞りました。弓矢体験をしたり、自ら声をかけて現地の人とコミュニケーションをとったりして1人でもイベントを楽しむことができ今では自分の自信へと繋がっています。

ホストファミリーとの会話

プレゼンを全部覚えて自信を持って発表できた事。

自分の最大限の力を振り絞ったのは最後のプレゼンテーションでした。自分が今まで学んできたことの集大成をそこで発揮しました。

アドバイザーの先生にミーティングで将来についての相談をしたときです。拙い英語で伝えたいことを全て伝えられるか心配でしたし、全く関係のないアドバイザーの先生にこのような話をしてもいいのかと悩みましたが、きちんと伝えることが出来てアドバイスを頂くことができたので勇気を振り絞って相談してよかったと思いました。

旅行の手続き。一人旅が目標だったので、ニューヨークで宿泊するホテルや飛行機、レジャー施設、何から何まで計画を立てて、予約したとき。

最後の一人で8分間のプレゼンテーションを二つ完璧にできたときです。

留学先大学の良かった点

イベントが豊富で、他のクラスの留学生や、ウォータールー大学の生徒と交流できる機会がたくさんありました。先生方もとても親切で、整った環境で勉強に集中することが出来ました。

月一くらいで個別ミーティングを開いてくれたこと。一人一人の顔をちゃんと見ていて、個別にメールしてくれたり話を聞いてくれたりと、とにかく生徒思いな学校だったと思います。

本当に周りの人たちがやさしくて、いい人たちでした。

先生がみんなとてもフレンドリーで話しやすかった。

カフェが学内にあったこと。イベントが多くあったこと。勉強の息抜きや会話をするためのクッキーが置いている部屋があったこと。

先生方がとても親切。施設がとても綺麗。治安がいい。

先生たちが面白くて、優しかった

発言できる場面が沢山あった事、悩み事が相談できる先生たちが周りに沢山いた事

留学先の良かった点は先生がフレンドリーな方たちばかりだったことです。

フレンドリーで親切な先生ばかりで、英語面・学習面・学校生活面など様々な場面で助けられました。オフィスワークの時間に質問しに行くと、いつも快く対応してくれました。また、アドバイザーのような先生と英語力向上のために one on one meeting という制度を利用することができた点が大変良かったです。事前に予約することで0.5~1時間のミーティングをすることができ、カナダの文化や学校、日本についてなど様々なことについて話をすることが出来て勉強になりました。毎月イベントがあり、大学の生徒と交流を深められた点も良かったです。

自然豊かでいろんな人種がいた為、国際的だった。

家から近い。ジムが無料。クッキーやフリーフードが多い。

制度がすべて整っているなと思います。ジムも無料で使えたのが大きいです。